

都市部における地域再生のための観光モデルの一提案 ～住民アンケート調査の分析～

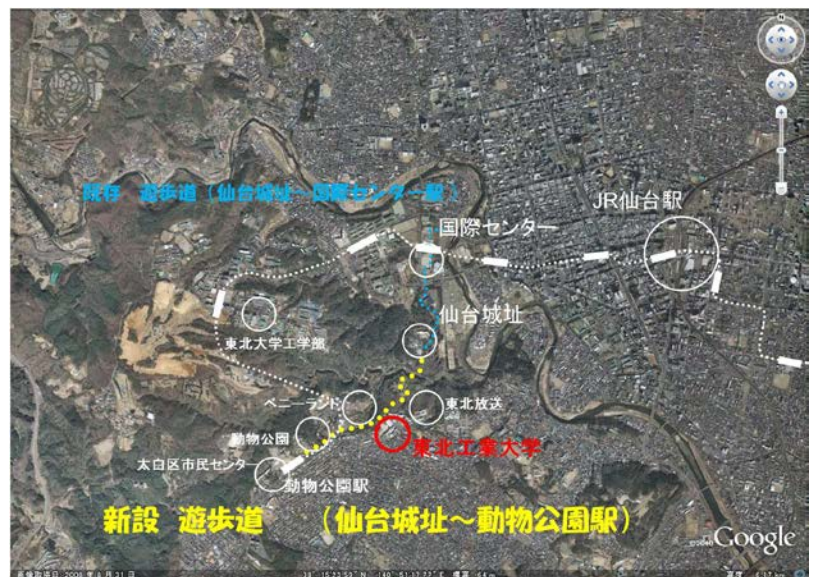
東北工業大学 学生会員 ○千葉祐太郎
東北工業大学 フェロー会員 今西 肇

1. まえがき

仙台市八木山地区は、豊かな自然と文化施設が点在している仙台駅に隣接した空間である。しかしながら、地域の大半が丘陵地のため交通が不便であり、十分にその魅力を発揮しているとは言い難い。そこで、我々はこの地域が自然と調和した観光拠点にならないかと考え、仙台城址から八木山地区を結ぶ遊歩道を計画した。本報告はその企画段階における住民の意識調査としてアンケートを実施したものである。

2. 遊歩道の提案

八木山プロジェクト（通称Yプロジェクト）は八木山地区の自然環境と調和した観光資源の活用を推進し、地域のまちづくりに貢献する事が目的である。図1は新たに計画した遊歩道の提案図である。遊歩道の提案ルートには、八木山、青葉山を中心とした自然林と、東北工業大学、動物公園、ベニーランド、東北放送をはじめとする文化施設が存在している。



3. アンケート調査

平成24年1月に「八木山地区のまちづくりに関するアンケート調査」を実施した。その結果を分析したものを以下に示す。アンケート調査は仙台市八木山地区住民を対象に、八木山に位置するスーパーマーケットの店内にて直接記入方法で実施した。対象人数は200名である。個人項目は表2、図2-1、図2-2の記載となり、60歳以上が年齢層の半数を占め、居住年数が20年以上の回答者が多い結果を得た。このほかに、暮らしやすさや不満に感じていること、将来のまちづくりなどの調査項目について質問した。

表2 調査対象者の性別

項目	人数	(全体) %
ア. 男性	80	40%
イ. 女性	120	60%
合計	200	100%

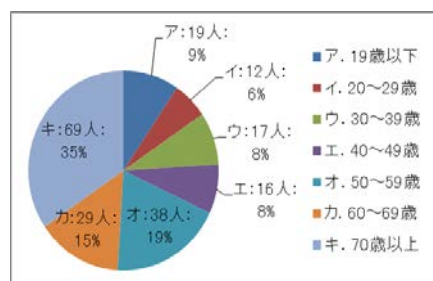


図2-1 居住年数

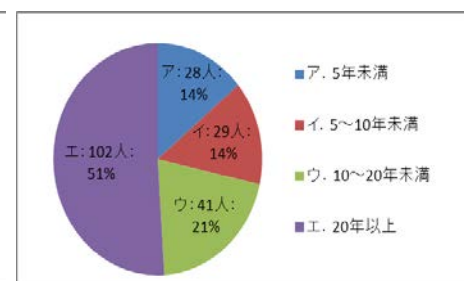


図2-2 年齢

キーワード：まちづくり、観光モデル、八木山、Yプロジェクト、アンケート

連絡先：〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35番1号 東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科
電話：022-305-3122

4. 分析結果

図 3-1 によると、八木山地区は住みやすいと回答している割合が高いが、回答者からは不満という意見も多く得られた。特に図 3-2 から「交通が不便」、「商店が少ない」、「活気がない」という意見が全体の半数以上を示した。「交通が不便」という意見については丘陵地に位置し、道路も狭い上に高齢化が進行していると考えられる。他に「ゴミ捨てマナーの悪さ」、「アパートやマンションからの騒音」という意見もあった。特筆すべき点は、休日に動物園や遊園地に車で訪れる観光客の駐車マナーが悪い点である。アンケート回答者からは、駐車

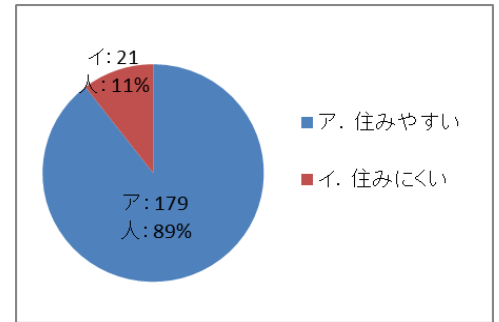


図 3-1 暮らしやすさ

車場よりも各施設から近い住宅区域内に不法路上駐車する場合も多く、区域内住民が車で移動する際の障害となるという意見があった。

将来のまちづくりについてのアンケート結果を図 3-3 に示す。図によると「交通の便が良いまち」、「景観に優れた緑豊かなまち」という意見が多く得られた。これは、上記で得られた不満に感じていることの改善策となるまちづくりを期待していると読み取ることができる。しかしながら、図 3-2 で「商店が少ない」、「活気がない」という意見が多かったが、図 3-3 ではこれに対する具体的な希望は低かった。これは、観光地として栄えることに対して、地域住民は少なからず不安に感じている一面もあることを示唆するものである。

また、図 3-2 から女性の方が男性よりも意見が多く、図 3-3 では男女とも同等の関心を示した。これは、八木山で生活する時間が女性の方が長く住環境に関心が高いと推察される。まちづくりを進めるにあたって、女性意見を尊重することが重要であると思われる。

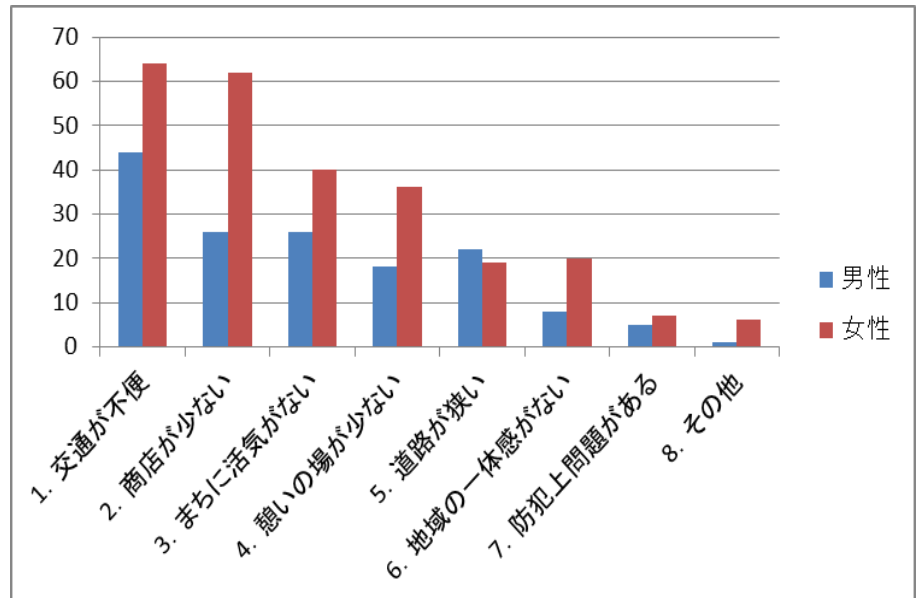


図 3-2 不満に感じること（複数回答可）

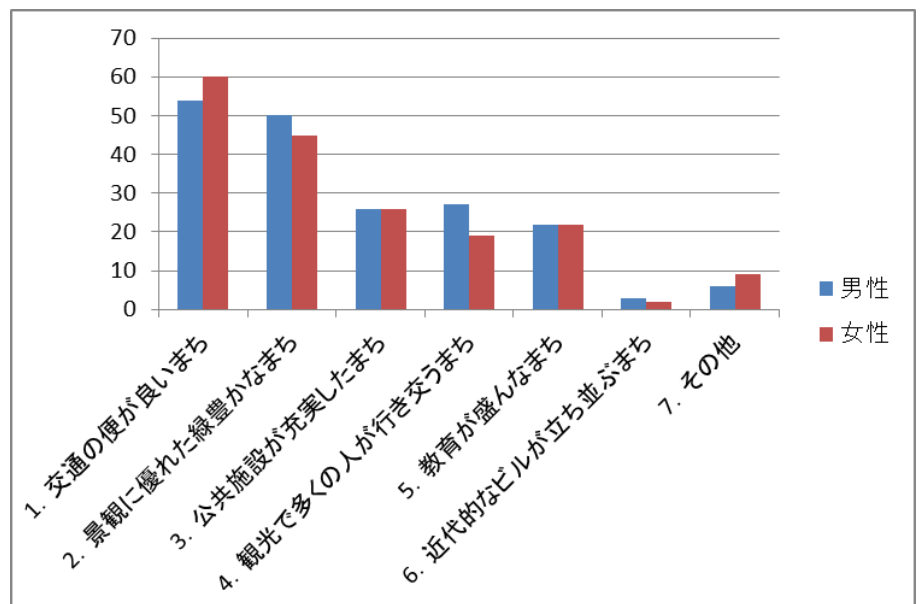


図 3-3 将来のまちづくりについて（複数回答可）

5. あとがき

今回のアンケート結果から八木山地域住民は、交通改善や商店、公共施設の充実で活気あるまちづくりを望んでいることを明らかにすることができた。このことから、Yプロジェクト提案から生まれる付加効果と、地域住民のまちづくり構想が近いものであると推測できる。今後はアンケート調査の結果を生かし、Yプロジェクト提案の実現性を検討していきたい。